

TOTTORI UNIVERSITY HOSPITAL CENTER FOR CLINICAL RESIDENCY PROGRAM

## 鳥取大学医学部附属病院

## 研修センターだより

鳥取大学卒後臨床研修センター

第36号 2020年3月30日発行

## 鳥取大学医学部附属病院卒後初期臨床研修における研修理念

将来、医療現場のリーダーとしてふさわしい安全・安心で、  
最高・最適な医療を提供できる優れた医療人となるために、

1. 医師としての高い倫理性・道徳性を修得する。
2. 常に患者および家族の立場に立ち、医療を実践する。
3. 日常診療で頻繁に遭遇する病態・疾患に適切に対応できる基本的臨床能力（知識、技能、態度）を修得する。

## ※第36号の紙面※

## ●ニュース・行事・話題

- 1ページ 令和元年度鳥取県臨床研修セミナー報告  
—「ACP(アドバンス・ケア・プランニング)」—  
2ページ 鳥取大学卒後臨床研修指導医講習会に参  
加して 放射線科 山本修一  
2ページ 令和元年度マッチング結果について  
3ページ 令和2年卒後臨床研修センター新年会  
鳥取大学医学部附属病院 研修医2年目 平井敬教  
4ページ 令和元年度鳥取大学医学部附属病院卒後  
初期臨床研修修了式を挙行いたしました

## ●シリーズ

- 4ページ 研修医今昔物語～私の研修医時代、そして今～  
病理部 野坂加苗  
5ページ 医局探訪～リハビリテーション科～  
リハビリテーション科 尾崎まり  
5ページ 2品目職員食堂～Gozzoの食レポ～  
6～7ページ 研修医日誌  
鳥取大学医学部附属病院 研修医2年目 森本健一  
鳥取大学医学部附属病院 研修医2年目 高橋雅子  
鳥取大学医学部附属病院 研修医2年目 平井敬教  
8ページ 令和2年度前期行事予定  
8ページ 編集後記

## ニュース・行事・話題

令和元年度鳥取県臨床研修セミナー  
報告—「ACP(アドバンス・ケア・プ  
ランニング)」—

令和元年11月22日（金）鳥取大学医学部附属病院会議室3・4で、今年度の鳥取県臨床研修セミナーを開催しました。鳥取県の研修医50名と指導医・上級医12名が集まり、ACPについて学びました。講師は函館稟北病院 副院長 総合診療科科長 川口篤也先生でした。今後の日本の医療を考える上で重要な認識はあるものの、なかなか集中してエキス

パートの話を聞く機会がない話題でしたが、1時間じっくりお話しいただき、研修医からも活発に質問が出ていました。

本セミナーの後には、大学の職員食堂GOZZOで鳥取県主催の研修医交流会が続けて開催され、賑やかに意見交換がすすみました。



## 鳥取大学卒後臨床研修指導医講習会に参加して

放射線科 山本 修一

12月14、15日に鳥取大学卒後臨床研修指導医講習会に参加させていただきました。土日を丸々かけて行う講習会で、朝から覚悟をして臨みましたが、私自身にも実りの多い講習であり、一部を紹介させて頂きたいと思います。

1日目は全体説明と臨床研修制度の講義の後、「研修指導で困っていること」のテーマでワークショップを行いました。切り離せるカードにテーマに沿った内容・意見を書いて隣の人に回して記入し、切り離したカードを内容毎にまとめ、模造紙に貼って発表するというものです（KJ法といいます）。内容は「どこまで手技などをさせてよいか悩む」「研修医の将来の希望と自らの科の研修内容が異なるためモチベーションを持たせることが難しい」など、皆さん似たような悩みがありました。2日目にこれらの問題点の対策を議論するワークショップもあり、研修指導について自ら考えるようなカリキュラムになっています。



他に、研修医に相談を受けた場合や研修医がミスを犯してしまった場合、どのようなフィードバックをするかについての講義・ロールプレイがありました。立場が上の人には相手の話を聞かなかつたり、一方的に指示や非難をしたりといったことが起こりがちです。教育技法として、まず「聴」く、そして「認」める、「次」につなげるというキーワードを学びました。相手も自分が言いたいことをうまく言えないこともあるため、受容的に聴くことが状況を把握するために重要です。また正しくできたことを認めることができることが次へのステップ・成長を促します。これは意識しないとなかなかできないことであり、研修医指導のみならず、他のこと（例えば自分の子供に接する時など）にも心にとめる必要があると感じました。

今回学んだことを臨床での指導で生かしていきたいと考えています。最後になりましたが、講義頂いた先生方、準備・PC操作などお世話頂いた事務の方、学生さんに深謝申し上げます。



## 令和元年度マッチング結果について

今年度の医科は新臨床研修の始まる2020年に向けたマッチングであり、研修の変更情報については学生さんも研修病院も手探りなところが否めない状況での採用試験でした。

医科は中間公表で5名、最終公表で12名であり、内訳は自由選択プログラムが3名、外科専門プログラムが1名、山陰たすきがけプログラムが6名、関西たすきがけプログラムが2名ということで、1年目に

鳥大病院で研修をスタートするのがわずか4名という結果になりました。

後日二次募集に応募があり1名を追加で採用予定とし、3月初旬現在では13名が採用予定となっています。

歯科は定員を3名として臨んだマッチングでしたが、枠がすべて埋まる3名フルマッチとなりました。さらに令和3年採用にかかるマッチング以降においては定員を4名とすべく検討をしているところです。今後もフルマッチが続くように、しっかりと広報をしていきたいと思っております。

## 令和2年卒後臨床研修センター新年会

鳥取大学医学部附属病院 研修医2年目 平井 敬教

年明けの1月10日、研修医主催の卒後臨床研修センター新年会をワシントンホテルにて開催させていただきました。研修医、上級医の先生方、卒後研修センターの方々含め、60人近くが参加する盛大な会になりました。

今回の新年会は、今までとは少し違ったこととして、鳥取大学医学部のカクテル部にドリンクの提供を行ってもらいました。カクテル部は、ボランティアで老人ホームの方々にお酒を出したり、朝日町でバーを経営したりして活動しています。多くの先生方から、例年とは違った雰囲気で楽しかったと言っていただきました。

また例年通り、bingoゲームも企画させていただきました。最後まで一等の景品が残り、第一外科の藤原教授と研修医2人の3人が同時にbingoになってしまふというハプニングが起き企画側としては内心びくびくしてました。見事に藤原教授がくじで商品を勝ち取り、なんと景品を研修医の2人にプレゼントするというハッピーエンド?で終わり企画側としては大満足な結果となり良かったです。いただいた景品は、すき焼きとして研修医で美味しくいただきました。

また、来年度以降の新年会をより良いものにするために、アンケートを作らせていただきました、先生方に答えていただきました。アンケートの結果は、参加費：高い7 適当25 安い2、bingoゲームの満足度：満足29 必要ない1 どちらでもない3、座席の決め方：くじ11 幹事に一任21 診療科ごと1、ドリンク(カクテル部)：満足31 ホテル側が用意した方が良い1、といった結果になりました。参加していただいた先生方に満足していただけたようで安心しました。

開催にご尽力くださいました、卒後研修センターのスタッフの方々、お忙しい中ご参加していただいた先生方、本当にありがとうございました。来年度にも、今回と同様に新年会もしくは、忘年会といった形で、先生方とお話し、一緒に楽しめる会を開きたいと思います。今回のアンケートの結果を踏まえ、より良い会にしたいと思っていますので、是非とも参加の程宜しくお願ひいたします。



## 研修医今昔物語 ~私の研修医時代、そして今~

病理部 野坂 加苗

私は2006年から2年間、鳥大病院で臨床研修をうけ、その後病理に入局しました。そんな病理医のちょっと変わった研修エピソードです。私は元々研究者になるのが夢で最初は薬学部に入りました。薬学部を選んだのは、生物学も有機化学も物理学も学べるからテーマが探しやすそう、というとても安易な理由です。その後生物学、そして基礎医学に興味が移行し、医学研究をするために医学部に入りました。医学部の面接では「私は基礎医学に進みたい」と述べ、面接官が大喜びしたのを覚えております(その面接官は病理学の教授だったと後ほど判明)。自分には病理が向いていそぐだと志望を漠然と固めたのが4年の時で、人生プランとして卒後すぐ病理学講座に入り、診断も少しあはしながら研究三昧みたいな事を考えておりました…がちょうどその頃、大事件が勃発しました。臨床研修の新制度が決まり、なんと想定外のスーパーロー必修化! 患者さんに触れる気など全くなかったのに、研修しないと病理医にすらなれない! 悲しい気持ちでいっぱいになりました。卒後もひたすら研修を恐れて過ごしていましたが、結婚を機に渡米し、いよいよ恐怖の臨床研修がスタートしました。4月、研修がひたすら辛くて家に帰っては何度も泣きました。臨床の先生方にとってはさぞかしやる気のない研修医に見えたことでしょう。そんな中でも丁寧に指導してくださった先生方のおかげで少しずつ臨床への興味も芽生え、患者さんに対し少なくとも今は良い研修医として接したい、という思いが生まれたのは自分でも驚きました。やがて、臨床に触れられるのは今だけだから、できるだけ多くのことを吸収して病理にいこうという気持ちに変わっていきました。今の私があるのはこんな私を見捨てずに指導してくださった諸先生方のおかげです。今では病理医志望の学生・研修医には「臨床を経験できるのは2年間だけだからしっかり吸収してくるんだよ」と指導しています。



## 令和元年度鳥取大学医学部附属病院卒後初期臨床研修修了式

令和2年3月24日、卒後初期臨床研修修了式を執り行いました。病院長より、研修医に修了書が手渡されました。病院長・センター長から祝福と激励を受け、卒後臨床研修センターを巣立っていきました。

修了式終了後には、令和元年度ベストレジデント賞および優秀指導医賞の授賞式が併せて行われました。研修医も4月からはそれぞれの道へ進みますが、中には市中病院で診療を開始する方もいます。鳥取大学の研修で結ばれた縁が、これからもつながっていけば幸いです。



# 医局探訪

～リハビリテーション科～

リハビリテーション科 尾崎 まり

鳥取大学医学部附属病院リハビリテーション科は現在、萩野浩先生（保健学科教授）、阪田良一先生（神経内科のDr）、尾崎の3人で診察を行なっており、週1回火曜日に鳥取県立総合療育センターの阪本綾子先生に手伝っていただいております。阪本先生は整形外科医ですが、リハビリテーション専門医の取得を希望しておられ、そのための研修で来ていただいております。皆がそれぞれリハビリの仕事とその他の診療科の仕事を掛け持ちしているため、なかなか1週間みっちり仕事が出来る医師はいないのですが、それが協力し合いながら、リハビリ診察が滞らないように診療しております。

2018年から新専門医制度が開始となりましたが、残念ながら鳥取大学リハビリテーション科プログラムにエントリーした専攻医はいません。なかなか医局を持たない、医学生の講義や実習もないリハビリテーション科ですので、専攻医の獲得は困難を極めています。一方、他診療科からのリハビリ医への転向は毎年、何人か希望してくれております。全国的にも専門医が少ない基本領域の科となります、いろいろな診療科や部門と横断的にかかわるやりがいのある仕事です。現在、定期的なカンファレンスだけでも7診療科、チーム医療としてかかわっているのは8チームあります（思い浮かぶだけですので、もっとあるかもしれません・・・）。少しでもリハビリテーション診療に興味のある方は、平日の午前中に、リハビリテーション部の診察室をのぞいてみてください。



2品目

職員食堂 GOZZO の食レポ ~シシリアンライス編~

卒後臨床研修センターの原田と申します。

2月26日～27日限定のシシリアンライスを食レポしました。  
どこがシシリアンなのか分かりませんでしたが、すき焼き風味で  
美味しかったです。



シシリアンライスは、佐賀市のご当地グルメです。ご飯の上に甘辛いたれで炒めた薄切り肉と玉ねぎを乗せ、その上にレタス、トマト、きゅうりなどを盛り付け、マヨネーズをかけた料理です。



今回も食後に月替わりのパフェを注文しました。今月はキャラメルナッツパフェでした。

## 研修医日誌

鳥取大学医学部附属病院  
研修医2年目 森本 健一

三度の飯よりオペが好き。そんな私が選んだのは心臓血管外科の道でした。

研修医2年目の森本健一と申します。私は学生の頃から心臓血管外科の道に進むことを決めていたため、初期研修は鳥取大学医学部附属病院の外科専門プログラムを選択し、鳥取大学で14ヶ月、鳥取県立中央病院で9ヶ月、隠岐病院で1ヶ月研修させて頂きました。まもなく初期研修というぬくぬくした安全地帯から、一瞬たりとも油断できない戦場へ送り込まれる日が迫っているなか、この2年間の初期研修を振り返させていただこうと思います。

私がこのプログラムを選んだのはまさしく手術を1例でも多く経験したいという単純な理由からでした。様々な科を研修し、臓器横断的に幅広い疾患を経験するgeneralな志向が注目されるなか、専門性の高い研修を送ることに関しては賛否両論あるかもしれません、私にはより多く外科研修を選択できる鳥取大学の外科専門プログラムは魅力的でした。結果的には大学、市中病院研修を含め12ヶ月半の外科研修の期間中に200例以上の手術を経験することができました。もちろん第一助手はおろか、ほとんどが第二助手や第三助手といった立場での経験であり、どれほどその症例数に価値があるかはわかりませんが、少なくともこれから外科医の道に進む同世代においてスタートダッシュを決めることができているのではないかと思っています。

また外科研修を送るなかで重要性を感じたのは周術期管理です。当然ながら手術中の数時間以外は周術期管理が主となり、心臓手術であっても全身管理の知識が必要となります。私が良かったと思うのは、外科研修以外の1年間での内科、救急科、麻酔科等のローテートの充実でした。外科プログラムではありますが、それらの研修も今後の外科医人生に必ず活かされると感じています。

最後になりましたが、このような有意義な研修生活を送ることができたのは皆様のお力添えあってのことと心から感謝しております。ただこの初期研修を良いスタートであったと言うにはこれからの自分自身の頑張りとその結果次第であると感じており、日々の研鑽を忘れることなく邁進してまいります。

鳥取大学医学部附属病院  
研修医2年目 高橋 雅子

私は鳥取大学自由選択プログラムで2年間（鳥取大学で21ヶ月、津山中央病院で2ヶ月、日野病院で1ヶ月）研修をしました（神経内科3ヶ月、第二内科2ヶ月、小児科1ヶ月、麻酔科1ヶ月、女性診療科1ヶ月、救急5ヶ月、第一内科3ヶ月、地域1ヶ月、精神科1ヶ月、第三内科4ヶ月、血液内科1ヶ月、感染症内科1ヶ月）。

研修が始まった頃は不安や緊張でいっぱい、カルテの使い方から分からないような状態でしたが、どの科の先生もアットホームな雰囲気で優しく丁寧に指導してくださいました。お陰様でだんだんと研修にも慣れて行き、自分の考えをもって、指導医の先生と相談しながら診療を行うようになりました。

私は内科志望でしたが、2年目の秋頃まで具体的な進路が決まっていなかったため、内科を中心にローテートしました。自由選択プログラムは自分の希望科を自由に組み合わせることができたため、じっくり悩んだ上で進路を決めることができた点が良かったと思います。

また、内科専門医プログラム専攻にあたって様々な内科症例の経験が必要となったため、血液内科や感染症内科の研修ができることも大学病院のメリットと感じました。他病院から当院の研修に短期で来ている同期も多く、様々な経験を持った同期と交流できたことも大きな収穫であったように思います。

外病院での研修やローテート科の変更など、事務の方が柔軟に対応してくださいり、充実した2年間を終えることができたように感じています。この2年間は学生の頃に想像していたより楽しい研修となりました。

春からは、当院で内分泌糖尿病内科として勤務することになりました。不安もありますが、今まで以上に責任感をもって仕事に臨んでいきたいと思います。

鳥取大学医学部附属病院  
研修医2年目 平井 敬教

私は鳥取大学医学部付属病院の山陰たすき掛けプログラムで、鳥取大学医学部付属病院で1年間、松江市立病院で1年間研修をしました。

私が山陰たすき掛けプログラムを選んだ理由は、市中病院と大学病院共に腰を据えて研修したかったからです。大学病院だけでは学べないこと、また市中病院だけでは学べない事があると考え山陰たすき掛けプログラムを選びました。

市中病院では、多くのcommon diseaseを経験し、診療することができ良い経験になりました。また当直では、診察する疾患も急性上気道炎やインフルエンザといった軽症なものから、大動脈解離や腸管穿孔といった重症の疾患もあり、とても忙しかったですが、トリアージの方法、救急外来での小児の診察方法など沢山の事を学ぶことが出来ました。

大学病院では内科の診療科を中心に研修させていただきました。大学病院ならではの専門性の高い疾患に対する診断や治療を学ぶことができました。それぞれの診療科でミニレクチャーや講義をしていただいたり、またカンファレンスでプレゼンテーションなどさせていただき、疾患に対してのアプローチの仕方や考え方を学ぶことが出来ました。

救急診療科や当直では、3次救急の疾患を中心に2次救急で診ることが少なかった、外傷やバイタル不安定でICU管理が必要な方の診療を行い、全身管理の難しさと重要性を学びました。

2年目に大学病院で研修が始まった当初は、市中病院とのギャップで色々大変だったことも有りましたが、指導医の先生方、卒後臨床研修センターの方々、そして研修医の仲間に支えてもらい、二年間無事に研修することが出来ました。

4月からは、松江市立病院に戻り、消化器内科医として勤務することになりました。

大学病院に戻って来るときに、皆様に受けた恩を返すことができるよう、今後も切磋琢磨していきたいと思います。



平井 敬教先生

高橋 雅子先生

森本 健一先生

## 令和2年度前期行事予定

日 程	行 事
4月1日（水）	鳥取大学医学部附属病院医療系職員合同オリエンテーション
4月2日（木）	研修医プレローテーション開始
4月4日（土）	第10回鳥大JMECC（医科1年目研修医）
4月6日（月）	JMECCの振替休日（医科1年目研修医）
4月8日（水）	鳥取大学医学部附属病院ホスピタリティ研修
4月10日（金）	研修科での研修開始予定（1年目研修医）
5月～6月初旬	臨床研修合同説明会開催予定
7月30日（木）	令和3年度研修歯科医採用第1回試験
8月6日（木）	令和3年度研修歯科医採用第2回試験
8月11日（火）	令和3年度研修医採用第1回試験
8月20日（木）	令和3年度研修歯科医採用第3回試験
8月26日（水）	令和3年度研修歯科医採用第4回試験
9月4日（金）	令和3年度研修医採用第2回試験
9月18日（金）	国立大学附属病院長会議医師臨床研修協議会（神戸大）
9月下旬	医科マッチング中間公表
9月28日（月）	令和3年度研修医採用第3回試験

### 編集後記

今年度もあっという間に終わってしまいました。(毎年同じことを書いています。)そ

してこれが自分にとって最後の編集後記となります。振り返ってみると恥ずかしいことばかりの研修医だった自分が、研修センターの一員となって初期臨床研修に関わることになるとは夢にも思っていませんでした。在籍した約6年間の間にも、研修医だった先生が一人前になって、こちらがお世話になることも多々ありましたし、学ぶこともたくさんありました。来年度はまた臨床研修制度が新しくなりますが、今後も鳥取大学で研修する研修医の方々が充実した研修ができるようお祈りしています。長い間お世話になった先生方、事務の方々、本当にありがとうございました。

なお、この研修センターだよりは当院で研修を修了した先生方にも配布しています。勤務先や住所が変更になった場合は、下記の連絡先までご一報ください。(西村 玲)



### 鳥取大学医学部附属病院 卒後臨床研修センター

〒683-8504 鳥取県米子市西町36-1

TEL: (0859) 38-7025 FAX: (0859) 38-6974

e-MAIL: [jimsotsugo@ml.adm.tottori-u.ac.jp](mailto:jimsotsugo@ml.adm.tottori-u.ac.jp)

URL: <http://sotsugo.med.tottori-u.ac.jp/>